

文明に抗い続けた日本列島人 縄文人の末裔の苦悩

それは、停滞なのか揺り戻しなのか
多神教徒日本人の宿命

2021-6-5 関裕二

複雑に見えるこの世界情勢も、じつにシンプルに解き明かすことができます

今、何が問題になっているのか。

一神教世界が多神教徒の国・日本を包囲しているということ

日本人は縄文的な発想から抜け出ていない？
抜け出すべきではない？

日本人に、その自覚すらないことです。

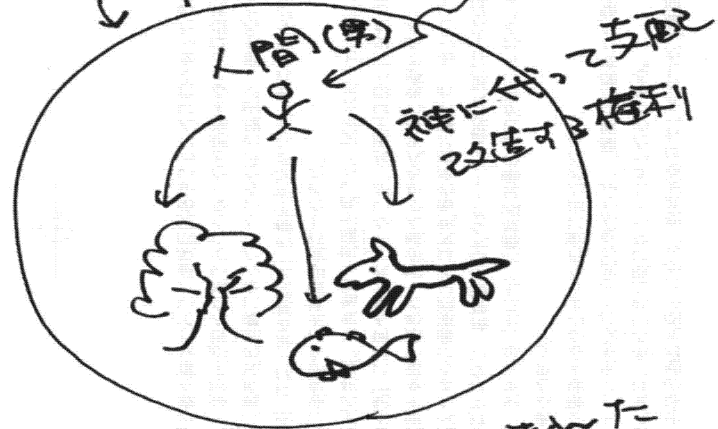
たとえば、日本社会はいつも西洋社会に後れをとっている
と・・・ルールメーカーになれないから・・・
じつはここに、多神教徒のジレンマが隠されています

- そこで、一神教と多神教の違いを、明確
にしておきましょう。

神に似せて
人を作った

一 神教

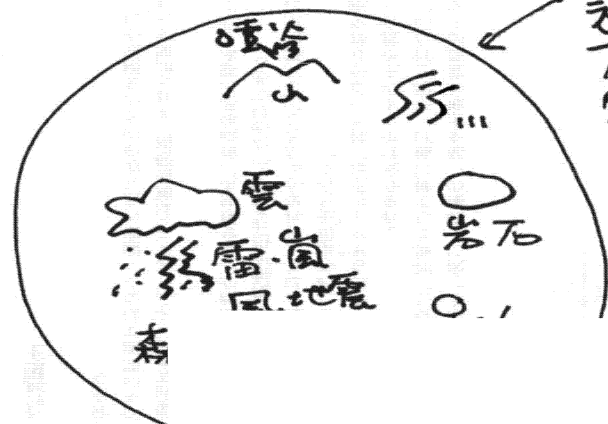
宇宙創造



一 神教は砂漠で生まれた
→ 豊穡な大地を欲した
その恨み
→ 復讐の正当性
神

多神教

精霊や
神は
万物に
宿る

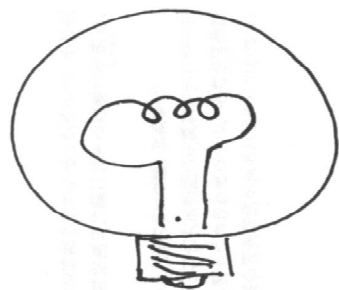


宿る

もの
は

(災害や疫病は...に宿る)

電球はただの物(物質)



ところが、目に見えぬ
電気が通ると光る



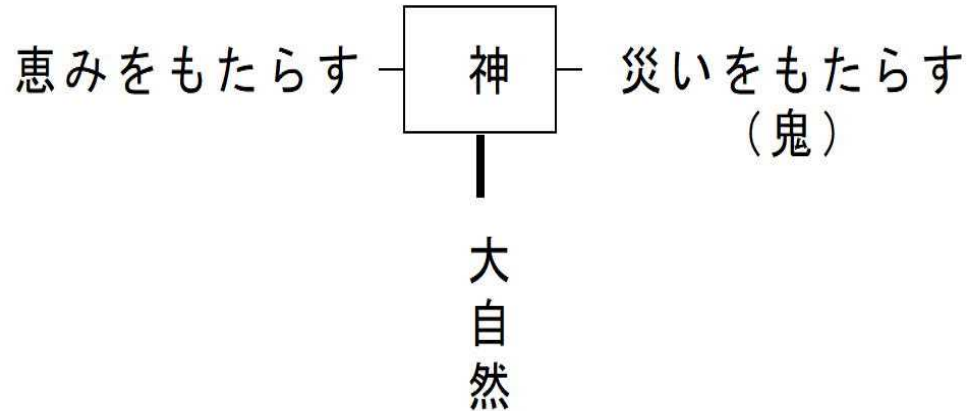
物に精霊(魂)
が宿ると
物は命を
輝かす

ここ、大切

- 一神教は砂漠で生まれ、多神教から発展したものと信じられてきました。
- 一神教は、人間が神になりかわって宇宙を支配する発想。多神教は、万物に神は宿り、大自然には打ち勝てないとあきらめる発想。
- 多神教が進歩して一神教になったというが、本能を失った人類（岸田秀）の暴走。
- 科学も哲学も共産主義も、一神教の親族
- 一神教が跋扈すれば、人類滅亡は避けられない

ヤマトの祭司王のカラクリ

多神教世界の神とは・・・



(宇宙そのもの)

* 神と鬼は、表裏一体

多神教世界の神の本質は
崇る鬼・・・・大自然の災害

人間は大自然（神・鬼）の前では
無力という「諦観」

ならば、どのようにすれば、
恐ろしい神をなだめすかすことができるのか
ここに、「祭り」「神道」の
本質が （じつに単純）

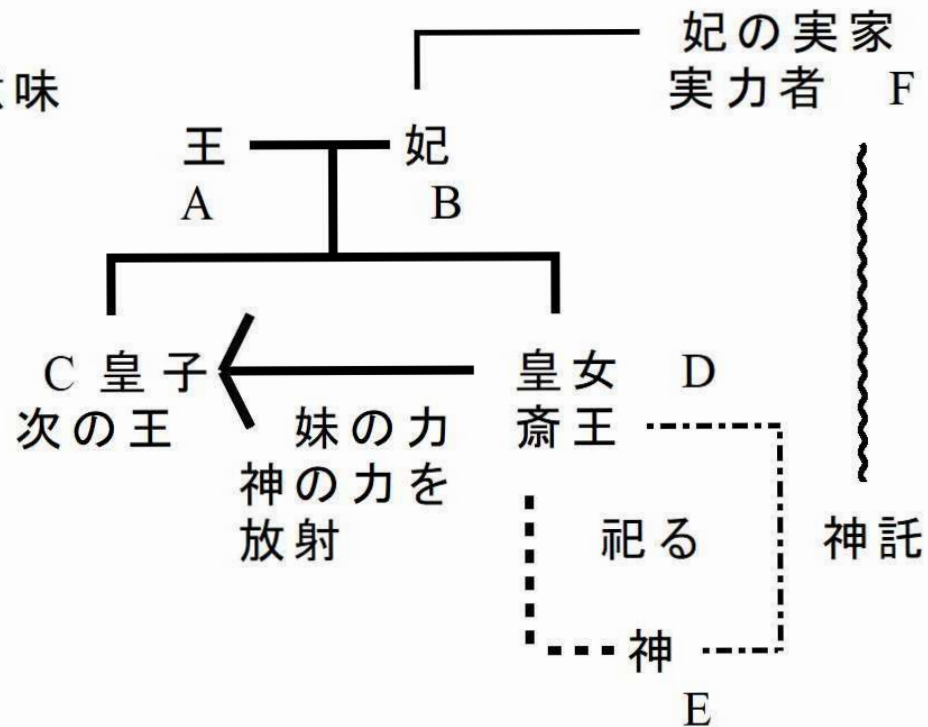
神をおだて、神に食事や酒を供え、
ご機嫌をとる。

そして、人身御供。

それがやがて、神と巫女の
擬似結婚に
(発明したのはスサノヲか?)

祭司王・ヤマトの王の役割は？

外戚の意味



実権を握るのはキサキの実家（権力者）

縄文時代から、日本人は多神教的発想を捨てることはなかった

- そこで少し、出雲の話をしておきたいと思います。松本清張氏の「砂の器」で翌知られているように、出雲は西日本にありながら、言葉は東寄りです。東北の言葉にも似ています。
- 遺伝子的にも、東北の遺伝子とよく似ていて、かなり古い段階に日本列島にやってきた人びとではないかと疑われています。

下駄箱会議の話

- 出雲の方々は、会議の席で本音をもらさず、会議が終わって解散する時（下駄箱で）、結論を出すと、うかがったことがあります。出雲の方は、自虐的におっしゃってましたが、これは意外に、多神教的で、間違っていないのかもしれないかもしれません。

南方熊楠が注目した粘菌

- 菌類と動物の性質を併せ持つ原始的な群体性生物で、ねばりをもつ
- 粘菌は単細胞だが、
- 独自のネットワークを構築する

中垣俊之氏（北海道大学教授）は、
「アメーバ状生物である粘菌が迷路の
最短経路を解く能力がある」と発表し、
イグ・ノーベル賞受賞を受賞している。

粘菌に原始的知性（intelligence）があることを
突きとめたが、英語圏の人びとは、
intelligenceは「神様が人間だけに与えたもの」
と、抵抗や反論が・・・

そこで改めて、縄文人について考えましょう

- 縄文人は、なぜ10000年以上も、狩猟採集生活を続けていたのでしょうか
- 「それは停滞」とかつては信じられていました。しかし・・・。
- 列島人は、文明を拒み続けてきたのでは無かったか。現代に至るまで・・・。

稲作をなかなか受け付けず、北部九州の人びとが導入したあとも、ゆっくりしたペースで、東に向かっていった。

- 人類が戦争を始めたのは、農耕をはじめてからだと考えられている。
- 縄文人は優秀な海人でもあり、中国文明の怖ろしさを知っていたのではなかったか

- 稲作が北部九州に伝わった時、東北の縄文人が、大勢押し寄せてきて、九州の土器に、影響を与えている
- 農業をはじめたら、人間はどうなってしまうのか、様子を見に来たのではないか。
- 考古学の専門用語は使いたくないが、これを・・

農耕接触

- ・ 進歩に逆らう必要が、どこにあったのか

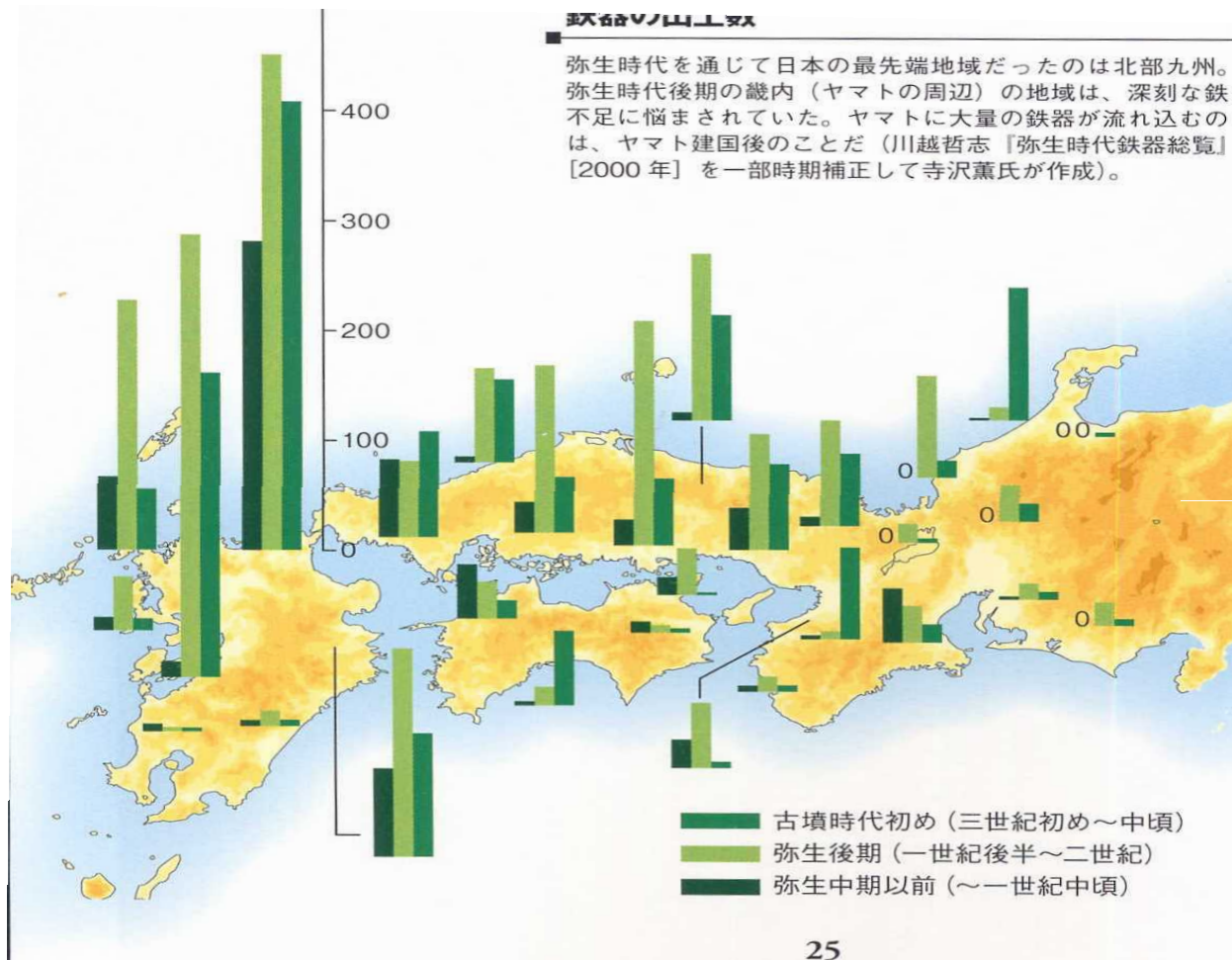
日本語脳の威力・・日本人は虫の声や動物の鳴き声、風や水の流れる音などを、世界の人とは違って「言語を司る左脳」で聞き取っているという（角田 [つのだ] 忠信『日本語人の脳』言叢社）。日本人は情緒的（非論理的）。多神教的発想の根源

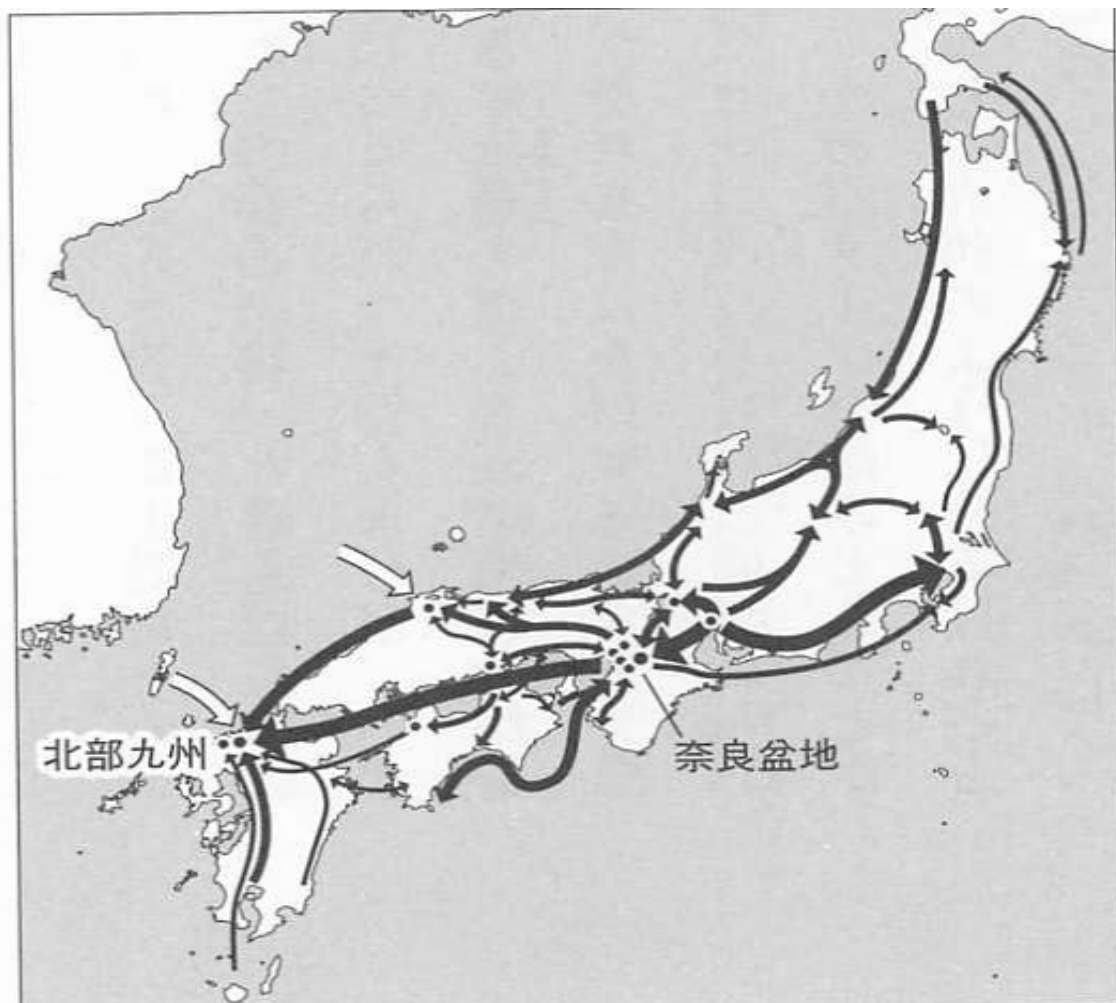
弥生時代は揺り戻しをくり返した

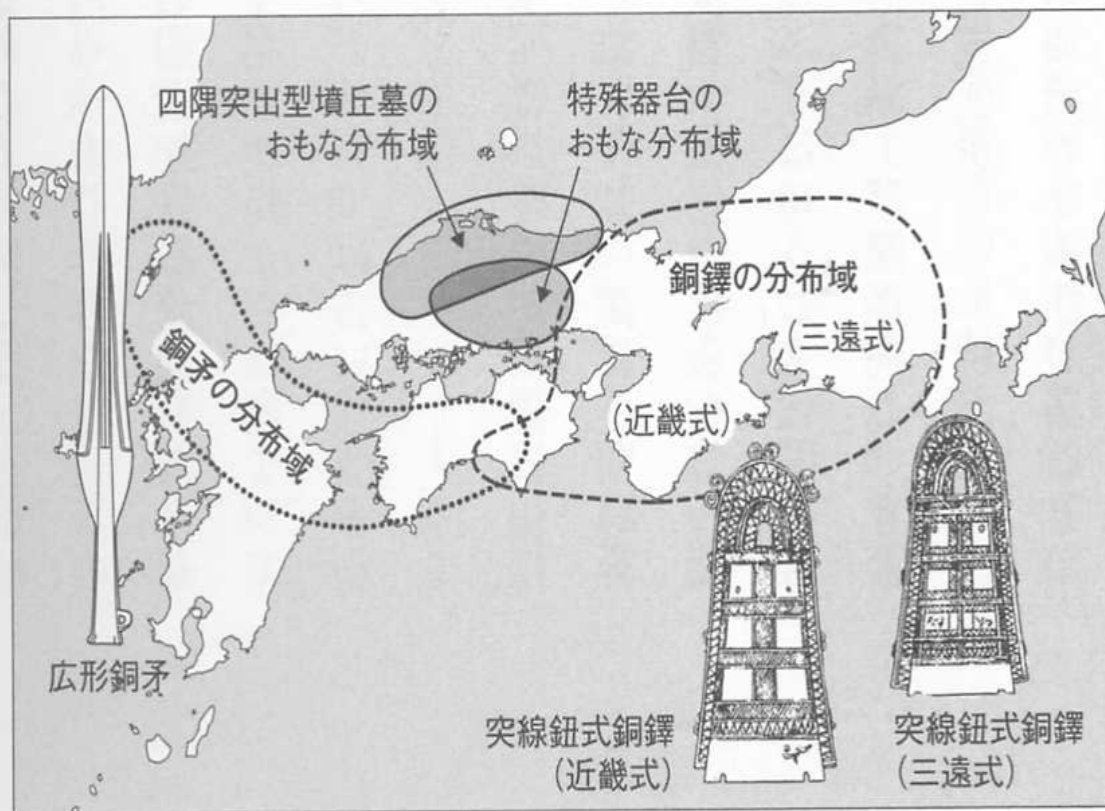
- 縄文人は進歩することを躊躇していた
- 弥生時代はなかった？
- ヤマト建国も、「文明に抗う人たちの手で成し遂げられた」と、指摘されはじめた
- もはや、かつての常識は通用しない。弱いものが寄り集まって、ヤマトを建国している

鉄器の出土数

弥生時代を通じて日本の最先端地域だったのは北部九州。弥生時代後期の畿内（ヤマトの周辺）の地域は、深刻な鉄不足に悩まされていた。ヤマトに大量の鉄器が流れ込むのは、ヤマト建国後のことだ（川越哲志『弥生時代鉄器総覧』[2000年]を一部時期補正して寺沢薫氏が作成）。









加茂岩倉2(3)号陶器

【要】 二重穴式(1号) 2号 4号

小口部に穴を穿ち、口部を閉じた

小口部 口部を閉じた 口部を閉じた

加茂岩倉2(3)号 口部を閉じた

